



国土交通省 千曲川河川事務所

Chikumagawa River Office
Hokuriku Regional Development Bureau
Ministry of Land
Infrastructure, Transport and Tourism

国土交通省

【取り扱い】 本資料の発表をもって解禁

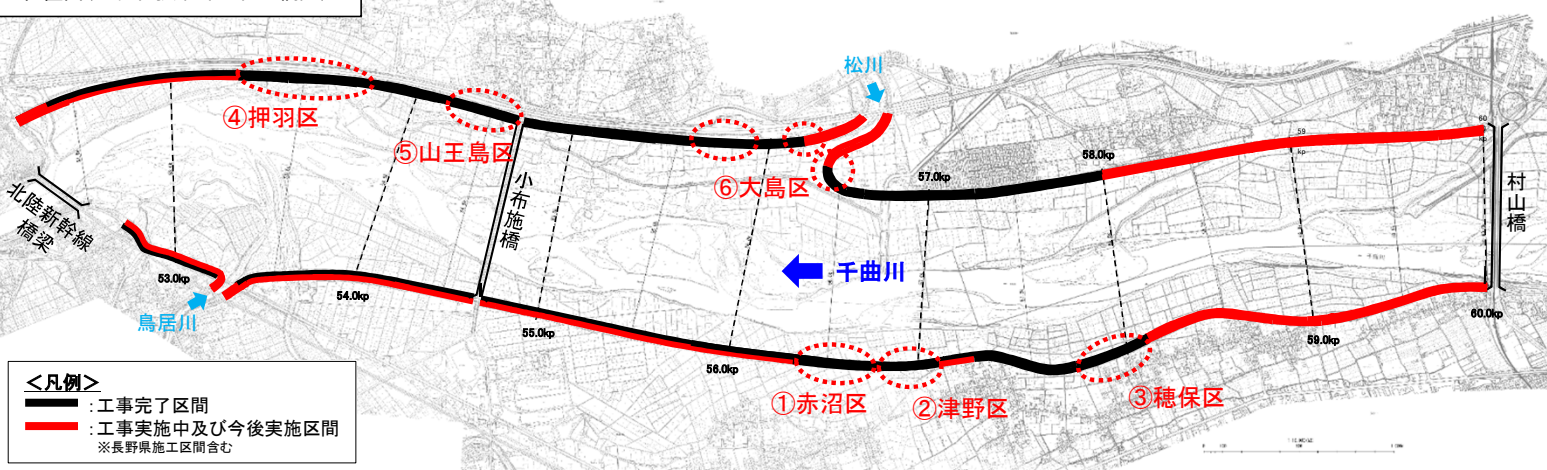
記者発表資料
令和5年8月3日

立ヶ花狭窄部～村山橋間における桜づつみ等の覆土崩落 ～復旧工事に着手します～

千曲川立ヶ花狭窄部上流から村山橋間で進めている「堤防強化区間」において、令和5年5月7日からの大雨で桜づつみ等の覆土（盛土表面や護岸前面の被覆土）の崩落が発生しました。現地の詳細な調査や専門家等による現地調査の結果、覆土崩落箇所の復旧工法が決まりましたので、お知らせします。

なお、復旧工事は8月中旬以降より順次着手する予定です。

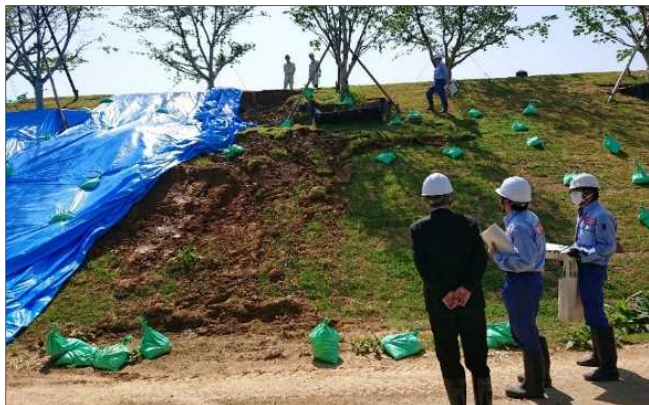
位置図(立ヶ花狭窄部～村山橋間)



専門家等による現地調査状況

5月18日に「信州大学工学部水環境・土木工学科 吉谷教授」、6月20日に「国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究室」、「国立研究開発法人 土木研究所 地質・振動チーム」による現地調査を行いました。

この調査では、堤防機能への支障は無く、覆土等の施工にも問題ないことを再確認したうえで、覆土崩落の想定される原因については、「①張芝の活着不足」、「②雨水の衣土への浸透」の複合的な原因が挙げられました。

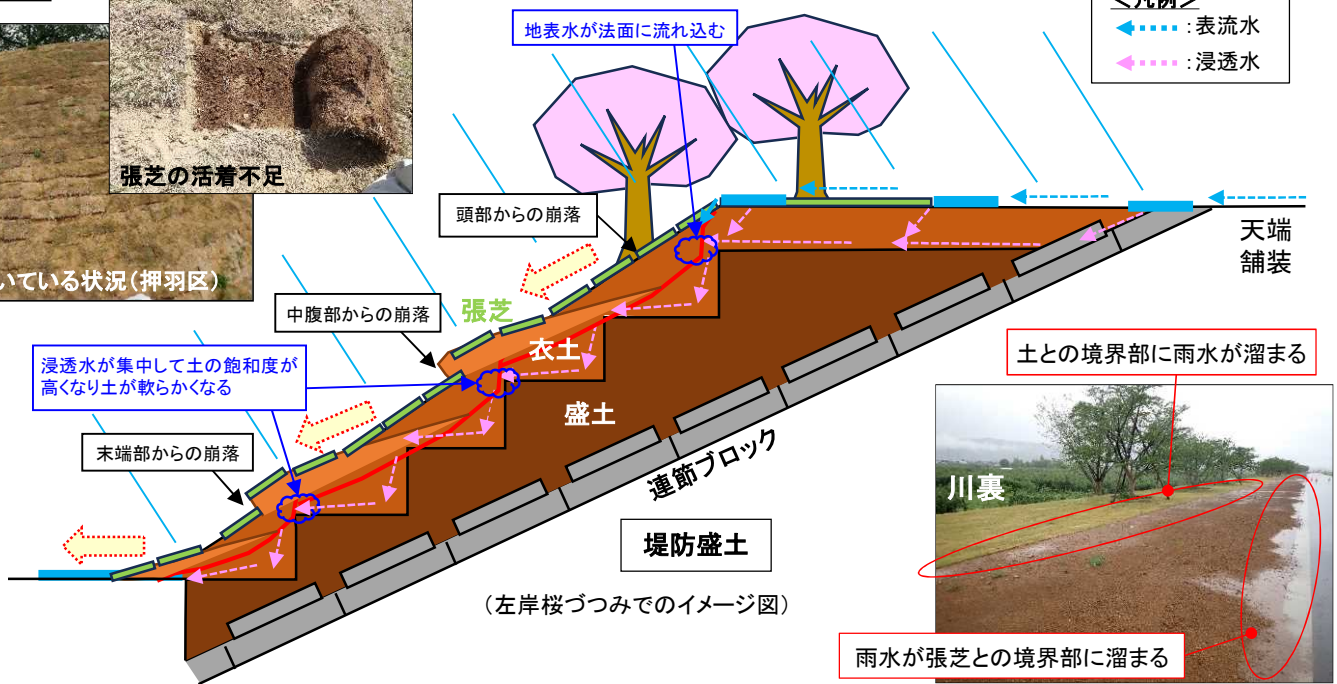


<信州大学 吉谷教授 現地調査状況>



<国総研・土研 現地調査状況>

想定される原因



原因:「①張芝の活着不足」

覆土崩落した箇所では張芝が容易にめくることができるなど、芝の根が衣土に入り込んでいない状況が確認されました。なお、張芝が十分に生育している地区では崩落は発生していませんでした。このため、張芝の生育が悪く、軟らかくなった土を「芝が押さえる力が弱かった」ことで崩落に至ったと想定されます。

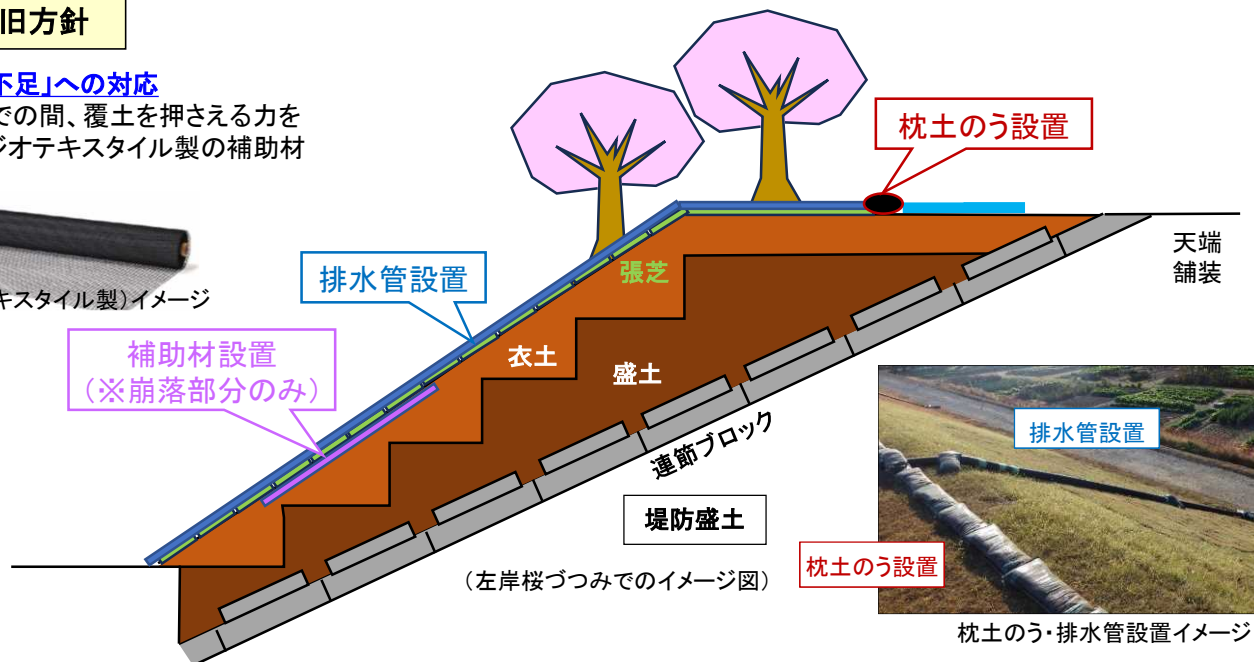
原因:「②雨水の衣土への浸透」

5月としては記録的な大雨(75.5mm/24h: 気象庁 長野観測所)であったこと、覆土崩落箇所から水の染みだしや堤防下に水たまりができていたことから、堤防に降った雨が張芝と土の境界部にたまり、そこから浸透した雨水が衣土と盛土の境界部に集中することで、土が軟らかくなり崩落に至ったと想定されます。

崩落箇所の復旧方針

「①張芝の活着不足」への対応

張芝の活着までの間、覆土を押さえる力を補助するため、ジオテキスタイル製の補助材を設置します。



<復旧工事のスケジュール>

復旧工事は、8月中旬以降より順次実施していきます。
なお、崩落しなかった箇所は、その後の降雨でも崩落しなかったことから、芝が活着していると判断されるため、復旧工事と同様な施工は予定していません。

「②雨水の衣土への浸透」への対応

張芝の活着までの間、堤防天端に降った雨が少しでも法面をつたって流れないようにするため、境界部に土のうを設置し、排水管で堤防下まで排水します。

【配布先】

- 長野県庁会見場
- 長野市政記者クラブ
- 長野市政記者会
- その他・専門紙

【問い合わせ先】

国土交通省北陸地方整備局
千曲川河川事務所 026(227)7611
副所長(技術) 谷口 和哉 (たにくちかずや)
工務課長 谷 茂行 (たにしげゆき)

【千曲川河川事務所
公式twitter】



【千曲川河川事務所
緊プロHP ※リニューアル!!】

